

ふりがな 氏名	ながた ひろし	都道府県	三重県	
	永田 裕寿			
所属/肩書	株式会社テクノ中部 環境調査部			
私の ESD活動	環境と教育			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は、高校、大学、大学院と「環境」分野において様々な角度から学んできました。高校生の頃は、高校近くの里山での猿害についての調査をしました。猿と人の共生について、調査仲間、指導教諭、地元住民、行政や専門家等の意見を聞き、互いに協力をしました。それぞれの視点から問題に向き合う事の大切さと違いを学びました。

大学では、新潟県佐渡島でのトキの野生復帰に向けての取り組みについて、佐渡島に行き学びました。佐渡トキ保護センターで、トキの歴史や生態を学びました。また、地元住民の方々と協力をし、放鳥後のエサ場作りを行いました。佐渡島の植生や生態系について、現地には行かないとわからない事もあり、自分の目で見て体験するという大切さを学びました。

大学院では、三重県内で行える新しい環境政策の提案について国際展示会でポスター展示をしました。ポスターの前を通る方々に積極的に声をかけ、業種、年齢、国籍関係なく様々な意見を頂きました。他の展示や講演にも積極的に足を運び、異業種の新しい知識も得る事が出来ました。これら、高校、大学、大学院で、「様々な視点から見る」「現地に足を運ぶ」「積極的に動く」という3つの大切な事を学びました。

また、就職後は、中部地区で ESD 活動を行っている方々とコミュニケーションを積極的にとるようにしています。多くの人々と触れ合うことで、自分自身の視野を広げる事が少しずつでも広がっていきと考えています。年齢、職業等様々な人々と共に ESD 活動と一緒に行動することで、それぞれの立場からの意見や考えを聞くことができました。社会に出て気づいたこともありました。中部地区というローカルな枠ではありながらも、自分自身の知らない世界を知ることができました。その上で、中部地区ならではの独自性という強みも知ることができました。

そして、これら自分自身の経験を母校の高校生に ESD 活動の一環として伝え、広めています。

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

ESD の発展のために、若者が担える役割は、「積極性」です。年齢が若い事は、まだまだ時間があるという考え方ができます。自分自身が興味を持ったことに対して、体験し、学び、考えるという経験をより多くできると思います。より多くを経験することで、自分自身の糧にもなります。ただ経験をただでなく、次世代につなげる事も必要です。つなげる事で、次の世代、次の世代へとつなぎとめる事も可能です。その次の世代と経験豊富な年齢の上の世代との間に位置する私たち若者が間に入ることで、パイプ役ともなれます。その事で多くの方々と共に ESD 活動のより大きな推進も期待できると思います。そして、ESD の発展にもつながると思います。そのためにも、若者が積極的に ESD 活動を行うという重要な役割を担っていると思います。